

福知山市新文化ホール基本計画再検討にあたっての評価・検討内容(案) (1/2)

1. 規模、駐車場台数の検討

(1) ホール席数等の規模の整理

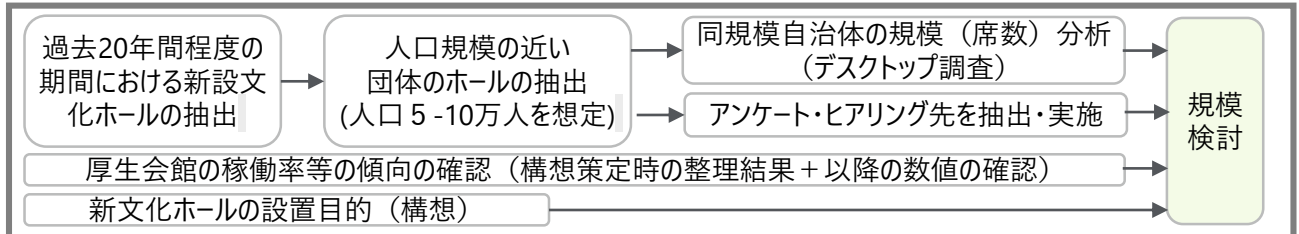
- ホール規模の整理では、デスクトップによるホール席数の行政人口比率の視点からの整理に加え、アンケート等による実際の運営収支の視点での整理も行います。
- 具体的には、デスクトップ調査での人口規模と席数の比率の確認とアンケート・ヒアリング等での稼働率や収支状況の確認を行います。

視点	行政人口規模視点でのホール規模	+	稼働率や収支視点でのホール規模	+	設置目的視点でのホール規模
確認事項	✓ 人口規模とホールの規模（席数など）はどのような関係があるか		✓ 稼働率目線での適切なホール規模はどの程度か（稼働率と収支の関係など）		✓ 設置目的を達成するために最適なホール規模はどの程度か
手法	デスクトップ調査		アンケート・ヒアリング調査		アンケート・ヒアリング調査

各視点の分析データと設置目的に沿った適正規模の検討

他市の整備や運営の実態と本市の設置目的を加味した規模設定をし、中長期目線での適正な規模の検討につなげる。

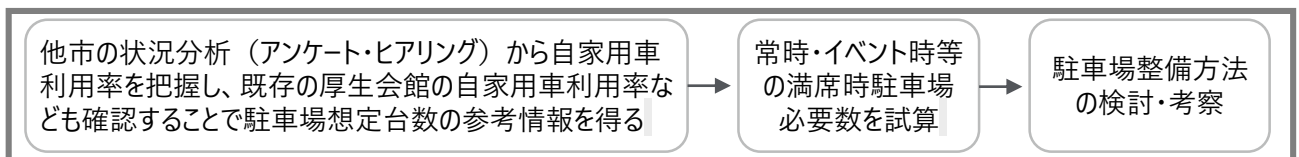
■具体的な進め方



(2) 駐車場台数の検討

- 文化ホールにおける訪問者の自家用車利用率を確認し、その数値を用いて駐車場台数の想定値を整理します。加えて、常時の駐車場必要数とイベント開催時等の臨時での駐車場必要数を分けて試算することで、どの程度の駐車場数の整備が望ましいかの判断材料を整理します。

■具体的な進め方



2. 場所の検討

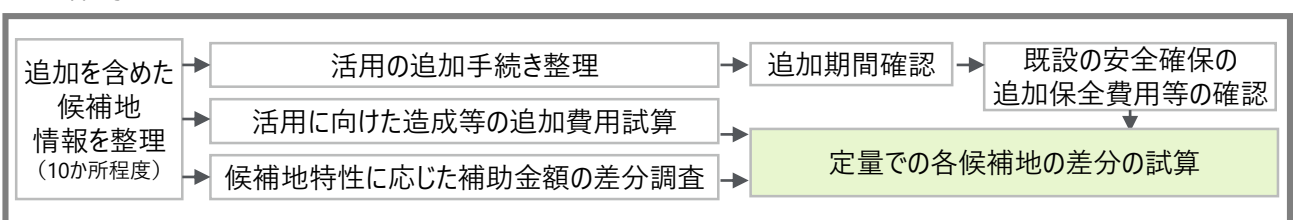
- 基本計画の評価内容を「設計・施工発注時期への影響」「直接的な費用への影響」の視点で定量化することにより、市や市民への負担を数値化し、候補地の抽出の判断に寄与する基礎情報とします。
- その他、有力と認められる候補地については、詳細での用地活用の課題も追加的に確認します。

直接的な費用への影響

候補地により、施工前に必要な造成等費用や活用可能な補助金が異なる

負担額定量化 → 結果を再評価

■具体的な進め方



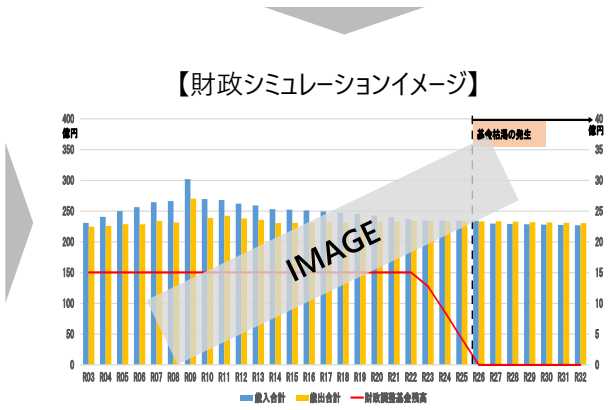
3. 市財政への影響評価

- ・本事業による施設整備を進めるにあたり、財政支出が将来の財政にとって過度な負担とならないことを検証するため、本事業が中長期の財政に与える影響を財政シミュレーションにより見える化します。
- ・具体的には市財政への影響を計るためには、事業実施にあたって想定される財源の内訳や20年間を想定したLCC（施設的设计・建設、維持管理、運営、解体）の試算を行い、本事業における前提条件を設定します。

■具体的なシミュレーションイメージ

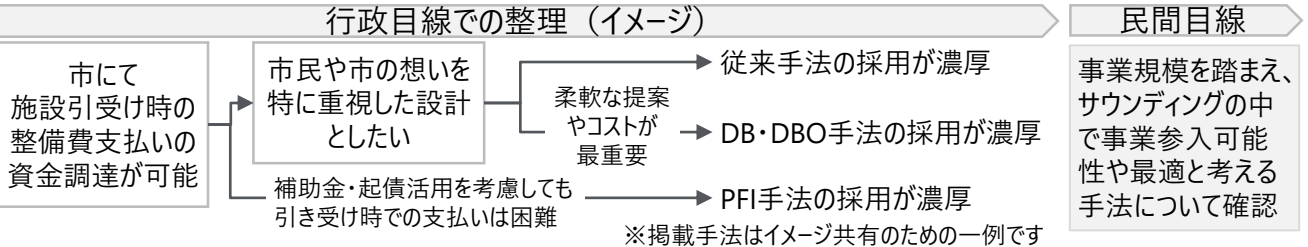
歳入項目等	主な項目	パラメータ設定（案）
	地方税	生産年齢人口や名目経済成長の増減を加味
	地方交付税	基準財政収入額は各歳入項目の推計結果を反映、基準財政需要額は人口推移を加味
	国庫・県支出金	普通建設事業費や扶助費等の補助対象経費起債発行比率の過年度平均を乗じる
	地方債	普通建設事業費等の起債対象経費に起債発行比率の過年度平均を乗じる
繰入金	繰入が歳出に不足する額を基金から取り崩す	

歳出項目等	主な項目	パラメータ設定（案）
	人件費	前年度数値を据え置き
	物件費	物価上昇率を加味
	扶助費	各人口階層の増減率を加味
	普通建設事業費	過年度平均に物価上昇率を加味したうえで、本事業の概算事業費を反映
維持補修費	同上	
公債費	既発分は償還計画に基づき、新規分は見込まれる地方債発行額に起債発行率の過年度平均を乗じる	



4. 事業スキーム、事業手法、スケジュールの検討

- ・他都市事例で採用されているスキームの確認を行い、新文化ホールで想定される事業スキーム・手法の抽出や抽出された事業スキーム・手法のメリット・デメリットの比較検討を行います。
- ・加えて、民間目線での事業スキーム・手法等における参入意欲への影響をサウンディングの中で確認し、民間事業者目線でも想定される手法の整理を行います。
- ・スケジュールについては、想定される手法ごとに整理を行い、開館時期への影響を確認します。
- ・これらの結果を総合評価としてどのスキーム・手法が想定されるかの判断できる材料としての取り纏めを行います。



■具体的な進め方

